

## 栗田明子さん講演「海の向こうに本を届ける」

33 期では会員による会員向けの講演会をこれまで5回開催して来ました。ここでは2月に開催した栗田明子さんの講演を報告します。

栗田さんは、昨年10月に、芸術や科学、福祉などで地域社会の発展に貢献した兵庫県ゆかりの個人・団体に贈られる「第43回井植文化賞」に選ばれました。33期はこれを記念して講演を依頼したもので、「海の向こうに本を届ける」と題し、聴講者は一般の方を含めて47名でした。



栗田さんは幼少期から西宮市に暮らし商社・出版社を経て日本の出版物を海外に広めたいと自ら著作権代理店を設立、著作権輸出のパイオニアとして欧米の出版社を訪問され、20数年間で世界40カ国以上、累計13,000件に及ぶ日本の図書を紹介して来ました。これが今回の受賞理由となりました。

講演では生い立ちから日本著作権輸出センターを設立するまでのアメリカでの波乱に満ちた半生、その後のセンターでの海外出版に結びつけた多くの作家との興味深い出会いの物語が語られました。繊細な感性で、良い作品を書き続けられるに違いないと見込んで紹介した兵庫県ゆかりの小川洋子氏。また、作家の個性を存分に感じさせる瀬戸内寂聴氏や有吉佐和子氏とのエピソード。さらに、毎年ノーベル文学賞を受けるのではないかと取りざたされている村上春樹氏について、「人気はありますけど、私は質の点でもう一つと思っていますので受賞なさらないと思います」との率直なお話もありました。

日本人の多くの作品を文化の違いを乗り越えて海外に紹介し、日本文化の理解を広めてこられた活動と功績は素晴らしいと思いました。

33期代表 兵東 勇